●おおしま・きしこ
1970年5月生まれ。東京都出身。秋田北高等学校卒業。放送大学教養学部心理と教育コース在学中。平成3年4月、毎週土曜日にオンエアされていた『ホットスタジオ』（ABS秋田放送）のテレビ番組アシスタントオーディションで採用が決まったことを機にこの世界へ。以来テレビおよびラジオ番組を中心に出演、ナレーター、制作、司会などを務める。現在は、テレビ「秋田県広報番組あきたびじょんNEXT」や「サタナビっ!」他、ラジオ「What The Number」に出演。

フリーアナウンサー

大島 貴志子

秋田の農産物はチカラ持ち

ジューンブライド。六月に結婚式を挙げると幸せになれるという欧州の言い伝えから、日本でも多くの女性が憧れる六月の花嫁。ですが！秋田では六月よりも人気の高い時期があります。さてそれはいつかと言うと10月後半から11月。そうです稲刈りの後です！ご親戚など招待したい周りの人たちに、農業に携わっている方が多いということなんですね。実りの秋を迎え農作業が一段落した頃に皆で祝う結婚式。ハレの日に感じる素敵な秋田らしさです。

ケ※（日常）で秋田らしいなあと思うことは、野菜は実家からもらって、お米は旦那さんの実家から届いて、春になると山菜が玄関先にいつのまにかドッサリ置かれていて、秋になるとそれがキノコになることです。これは私ではなく友人たちの話です。まあ羨ましい、実に羨ましい。まさにケ（食え）。うちにも誰か山菜を置いていってくれないかなあ？

我が家はといえば、私が届ける側でして、関東に住む弟家族に秋田の農産物を季節に合わせてせっせと送っています。都会で生まれた甥っ子たちは、もの心がつく前から秋田の美味しいものを食べて育っています。この冬も、きりたんぽ鍋セットを送りました。9歳になる甥っ子が「秋田に行って雪を見ながら食べたらも～っと美味しく感じるだろうねえ」なんて一丁前にしみじみと電話口で話していました。都会育ちの甥っ子たちは秋田の食を通して、季節や自然の成り立ちを感じているようで、おばちゃんとしては嬉しい限り、秋田の農産物サマサマです。ちなみに弟曰く躾に関しては、なまはげサマサマだそうです。

都会に住む友人から気づかされた秋田らしさもあります。写真が趣味で立派な一眼レフカメラを持つその友人が秋田に遊びに来た時に最も熱心にシャッターをきっていたのが「コイン精米所」でした。街のアチコチで見かけることに衝撃を受けていました。こちらとしては、それこそアチコチにあるので当たり前の風景なのですが、自分で好きな時に好きなだけ精米できることに感動しきりでした。コンビニより多いんじゃない？と言っていましたが、それは流石に盛り過ぎですね！

現在、秋田県のテレビ広報番組や、AAB秋田朝日放送「サタナビっ！」で、JAや農家の皆さんを取材させていただく機会をいただいています。キャベツ畑からの中継で、採れたてキャベツをガブリとかじったら、いい音出すね！と音声スタッフに褒められました。けれどそれは私の歯のチカラではなく、キャベツの葉のチカラです。歯触りが柔らかく瑞々しい採れたてキャベツが「シャクッ！」と広大な畑に響かせてくれました。朝露をたたえ丸々としたキャベツはテレビ画面いっぱいに映るだけでその魅力を伝えてくれました。そんな秋田の農産物のチカラを借りて、秋田らしい幸せを伝えられる喋り手になりたいと思っています。これからも秋田の農産物のストーリーをたくさん教えてくださいね。

※「ハレとケ」の「ケ」…「ハレ（晴れ）」とは、祭りなど行事が行われる非日常。「ケ（褻）」とは、普段着を意味する褻着（けぎ）や日常食を意味する褻稲（けしね）から、日常生活の意。

〈写真上〉JAあきた白神の「白神ねぎ」の取材や、〈写真左〉農事組合法人こまち野さん（羽後町）からテレビ中継をしたときの様子。